



常盤中学校だより

令和 8 年 9 月 7 日

No. 10

四日市市立常盤中学校

《学校教育目標》 生き生きと輝く

全国学力・学習状況調査の結果より

3年生を対象に4月23日に実施された令和8年度の全国学力・学習状況調査（国語・数学・英語・生徒質問紙生活調査）における本校の結果について、傾向（強みと弱み）等をまとめました。この調査の目的は、学習や生活の状況を把握するとともに、より効果的な教材や学習の進め方や生活等を検証し、指導の充実や学習状況の改善等に役立てることです。今回の調査結果を踏まえ、各教科の指導方法等の改善や生活面等への指導・支援に活かしていきたいと考えます。



1 学力調査からみられる本校3年生の特徴（強みと弱み）

【国語】

全体を通しての正答率は、全国平均や四日市市平均を若干下回っています。強みとしては、視覚的な資料の読み取りや表現の効果に関する問題において高い定着が見られました。また、描写の効果を問う問題でも高い正答率を維持しています。これらの結果から、提示された情報を的確に整理・分類する力や、文脈に応じた表現技法の工夫を読み取る基本的なスキルは身につけているといえます。弱みとしては、自らの考えを論理的に記述する言語活動において課題があります。領域別では、「読むこと」が約6ポイント、思考・判断・表現力を問う記述式問題で軒並み全国平均を下回りました。

今後は、文章の図解や表を使った全体の整理授業に取り入れるとともに、文章を書き出す「手順やパターン」を丁寧に学習することで、読解力と書く力の向上を図っていきます。

【数学】

正答率は、ほとんどの問題で全国平均を上回っていて、無回答率も全国平均を下回っていることから、前向きに粘り強く取り組んでいることがわかります。領域別では、関数分野では、全国平均を3.7ポイント上回り、数と式の分野では、1, 2年生までは苦手な領域であったのが全国平均をやや上回るまでに成長しました。また、記述式問題の様子から、書く力や説明する力も徐々についてきているようです。全体的には、これまで顕著に見られたような正答率の二極化については、やや改善傾向がみられるものの依然として中間層の割合が少ない現状です。

今後も少人数授業を活用し、個々の能力を伸ばすことで課題を解決したいと考えます。特に、小グループによる学習活動において、振り返りレポートや単元テストなどを活用して「伝える力」「聞く力」「まとめる力」の向上を図っていきます。

【英語】

基礎的な内容については、おおむね全国平均程度の力が身につけていると思われます。強みとしては、聞くことについての選択問題が9.7ポイント、書くことについての短答式・口述式問題で8.3ポイントそれぞれ全国平均を上回りました。聞いたり読んだりした内容から必要な情報を捉える力や、既習の表現を用いて答える力があると思われます。弱みとしては、読み取り問題全般で全国平均を下回っており、文章の内容を正確に読み取る力、音声から必要な情報を正確に捉える力の定着が課題です。

今後は、聞く・読む活動を通して得た情報を、最終的に自分の言葉で表現する活動につなげることで、4技能を関連させながら英語による実践的なコミュニケーション能力を指導していきたいと考えます。

2 生徒質問紙からみられる特徴

【学習面】



(設問)「平日1時間以上勉強している」・・・本校 63.0%、県 61.7%、全国 61.6%

(設問)「休日1時間以上勉強している」・・・本校 53.2%、県 48.9%、全国 52.5%

平日1時間以上、休日1時間以上、授業時間以外に学習していると回答した生徒の割合は、三重県や全国と比較して多く、学習習慣がついている生徒が多いことがわかります。

(設問)「ICT機器で文書を作成することができますか」・・・本校 89.6%、県 86.0%、全国 84.8%

(設問)「インターネットを使って情報を収集できますか」・・・本校 91.7%、県 90.9%、全国 90.9%

(設問)「自分でプレゼンテーションを作成できますか」・・・本校 87.5%、県 77.1%、全国 80.0%

三重県や全国に比較して、タブレットを使いこなせていると考えている生徒は多いようです。各教科でタブレットを使用した授業を行ってきた結果であると考えられます。

(設問)「課題解決に向けて自分で考え取り組みましたか」・・・本校 82.8%、県 80.6%、全国 78.8%

(設問)「各教科で学んだことをいかして考えをまとめましたか」・・・本校 77.1%、県 72.5%、全国 70.8%

課題解決に向けて自分から取り組んでいる生徒や、資料を収集し、活用しながら発表することに積極的な生徒が多いことがわかります。各教科や総合の授業の中で、資料を用いた発表の機会を設けてきた結果であると考えられます。

【生活面】

基本的生活習慣等について

「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」の設問に、それぞれ 89.6%、87.5%、92.2%の生徒が肯定的な回答をしています。どの設問も県や全国の結果と同じ、もしくはやや上回る結果です。このことから、規則正しい生活習慣が比較的整っているといえます。

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等について

(設問)「自分には、よいところがあると思いますか」・・・本校 86.5%、県 84.1%、全国 84.0%

(設問)「将来の夢や目標をもっていますか」・・・本校 70.8%、県 68.4%、全国 67.6%

(設問)「学校に行くのは楽しいですか」・・・本校 91.7%、県 85.8%、全国 85.4%

上記の質問では、肯定的な回答が三重県や全国と比較して多く、自分を肯定的にとらえたり、将来への展望を前向きにとらえたりしているということがわかります。

(設問)「人が困っているときは、進んで助けていますか」・・・本校 91.7%、県 90.7%、全国 85.4%

(設問)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」・・・本校 95.3%、県 95.4%、全国 95.1%

と、三重県や全国平均と共に高い数字になっています。今後はさらに常磐中学校として規範意識や社会性、人権意識を育む活動を推し進めていきたいと考えます。



3 今後の取組について

上記のような本校の成果と課題を見据え、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の一体的な充実を図り、対話的な学びへとつなげていくために、学校として研修を深め授業改善に取り組むとともに、以下のような家庭学習の定着・工夫に向けた取組を実践していきたいと考えています。

(1)さまざまな機会を活用した読書習慣の形成

四日市電子図書館の活用を促進したり、校内では図書室以外の教室でも本にアクセスできる環境を整えたりして、読書に親しむ機会を増やし、家庭での読書習慣の定着を図ります。

(2)「書く」活動の充実と文章構造把握に向けた型を導入

文章の図解や表を使った文章全体の構造把握し整理する活動を授業に取り入れるとともに、自分の意見や根拠を書き出す際に手順やパターンを提示して、「書く」活動を取り組みやすくします。

(3)家庭と連携した学習習慣の改善

学習の見通しをもち、学習方法を選択して取り組む家庭学習（OODA ループの活用）を進め、各家庭と連携しながら学習習慣を全体として定着させます。

(4)自ら学び、学んだことをまとめたり、振り返ったりする力の継続した育成

各教科や総合的な学習の時間で学んだことを生かしながら考えをまとめる活動や、まとめたものを表現する活動、さらに総括として振り返りに取り組ませるなどして継続して育成していきます。